

競技および審判上の注意

1 総合的な注意

- (1) 今大会は現行のBAJルールブックに準じて行う。
ただし、『BAJルールブック2026』P. 28～29記載の「代替スコアリングシステム 2. 1ゲーム15点で2ゲーム先取の3ゲームマッチ」を適用する。
- (2) 本部の指示があるまでは、コート内での練習は認めない。
- (3) 競技開始の指示があってから3分間以内にコートへ入らない場合は失格とすることがある。
- (4) 主審は特にサーバー及びレシーバーにおける「フォルト」について判定しコールする。ただし、競技規則に係る訴えに限り、主審が判断できないものは、レフェリー・デピュティレフェリーに確認する。サービスジャッジについては主審とレフェリー・デピュティレフェリーが協議して、必要があると認めた場合に任命する。試合中に審判上のことでトラブルが生じたときは、速やかにレフェリー・デピュティレフェリーに報告を行い、その指示に基づいて行動する。
- (5) ゲーム途中（8ポイント）に60秒・各ゲーム間に120秒を超えないインターバルを認める。なお、インターバル時に指定区域内でアドバイスを受けることはかまわないが、コートに入れるのは同時に2名までとする。
- (6) 試合中のけがや病気の手当や処置について、コートに入ることを許されるのは、必要と認められる医療補助員とレフェリー・デピュティレフェリー、もしくはレフェリーが認めた者だけである。
- (7) 今大会はゲーム中の給水を条件付きで認める。
 - ・水分補給用のボトルや水筒は、各自が用意したケースまたはバッグに入れる。
 - ・クーラーボックスのフロアー内持ち込みは禁止とする。
 - ・氷嚢の使用は、インターバル中のみとし、使用後は保冷バッグに入れる。
- (8) 背中に校名（上）、県名（下）を明記、または明記されたゼッケンを着用する。文字の大きさ、配色等について、総会時の資料を確認する。
- (9) コーチ席に入る者は競技規則を遵守するとともに、大会運営を優先する。選手がコーチ席に入る場合も、長ズボンまたはスカートを着用するなど、コーチと同じ服装規定が適用される。
- (10) 主審に質問出来るのは、学校対抗戦では監督と当該選手、個人戦では当該選手である。ただし、抗議であってはならない。
- (11) 次のような違反行為に対して厳正に対処します。（競技規則第16条）
 - ・息切れなど体力回復等やアドバイスを受けるためにプレーを遅らせる行為。
 - ・審判員や観客に対して横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動。
 - ・見苦しい着衣でプレーをする。
 - ・ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くなどの行為。
 - ・耳障りなかけ声や奇声を発するなどの不品行な振る舞い。
- (12) その他、諸注意を守る。

2 学校対抗戦の注意

- (1) オーダー用紙は指示があったら、監督サインを確認し、速やかに提出する。
- (2) メンバー変更は、大会当日の監督会議時に受け付ける。（それ以降は認めない）
- (3) ベンチに入れるものはメンバー表に掲示されている監督、コーチ、マネージャー、選手のみである。なお、マネージャーも選手として出場出来る。
- (4) 第1シングルスはダブルスと兼ねることができない。
- (5) うちわ等を使っての応援、リズムを取った手拍子、立ち上がったの応援は行わない。またベンチ及びギャラリーからのアドバイス、試合を行っている選手以外のコートへの立ち入り等は禁止する。
- (6) 先取マッチ（試合）方式で行う。また、2又は3コートで並行して行うこともある。
- (7) 全対戦前に5分のアップ時間を設ける。

3 その他

感染症の対応については、原則、各中央競技団体のガイドラインや自治体の指針に従うこととし、その他、教育委員会や高体連事務局からの方針等があった際はそれに従うこととする。